
新型コロナウイルス感染症にかかる 県内の感染動向等について

対象期間 2月6日～2月12日

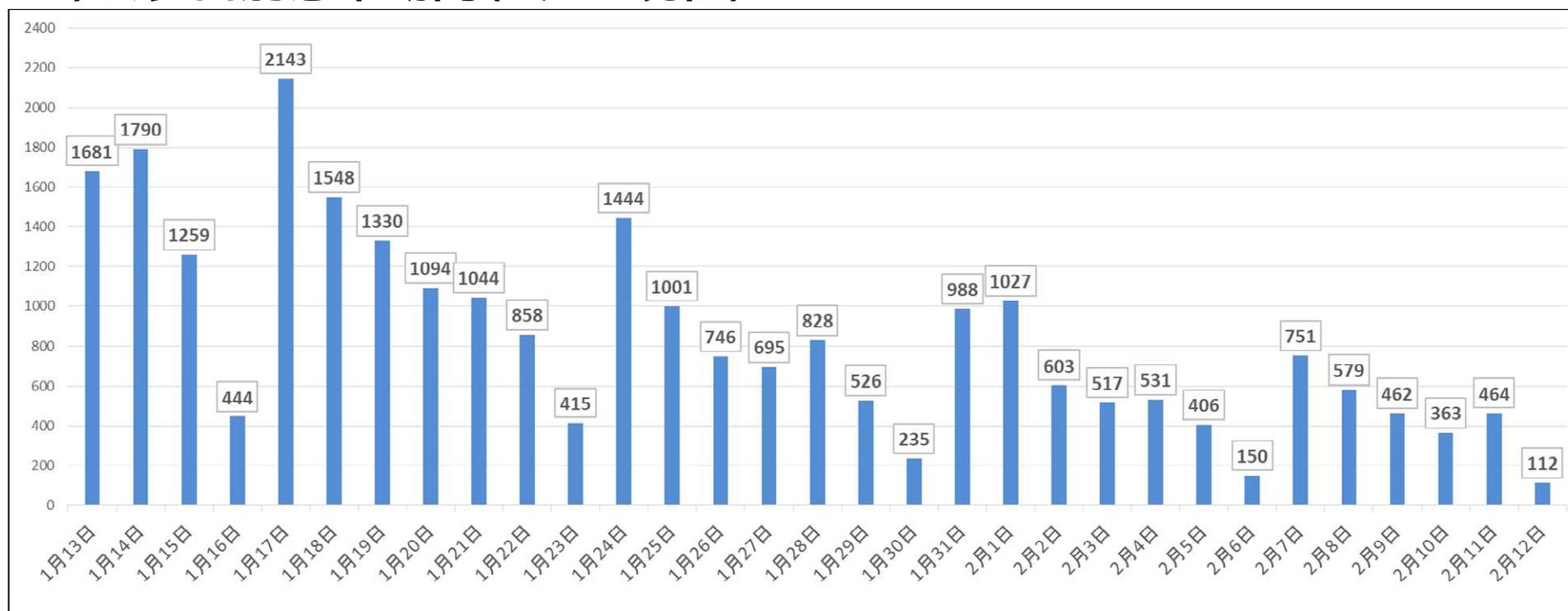
2月14日 健康医療福祉部感染症対策課

1、県内の感染状況について

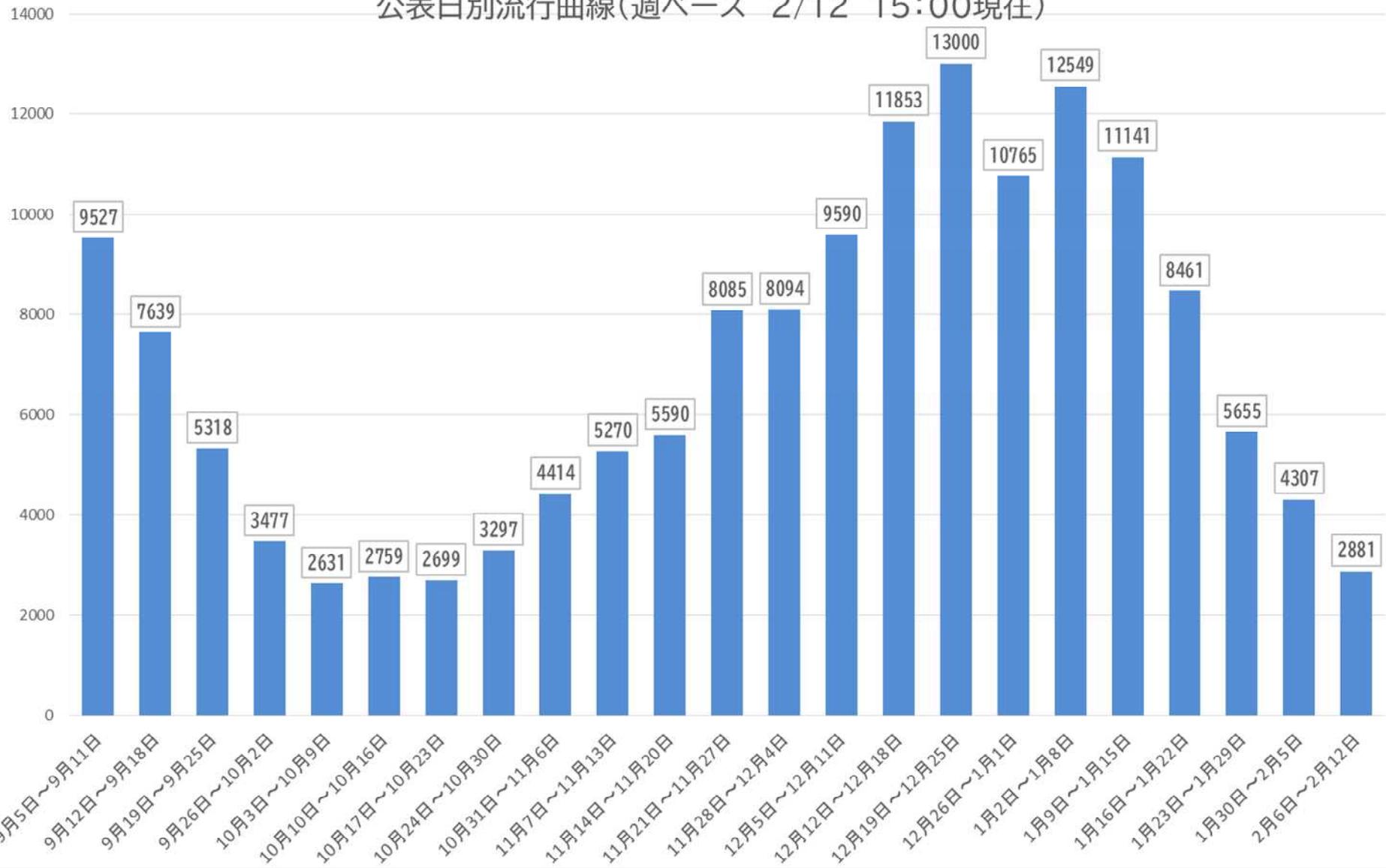
1) 県内の陽性者発生状況

	新規感染者数
今週の報告数(2/6~2/12)	2,881人
累計(2/12現在)	367,482人

2) 公表日別感染動向(2/12現在)



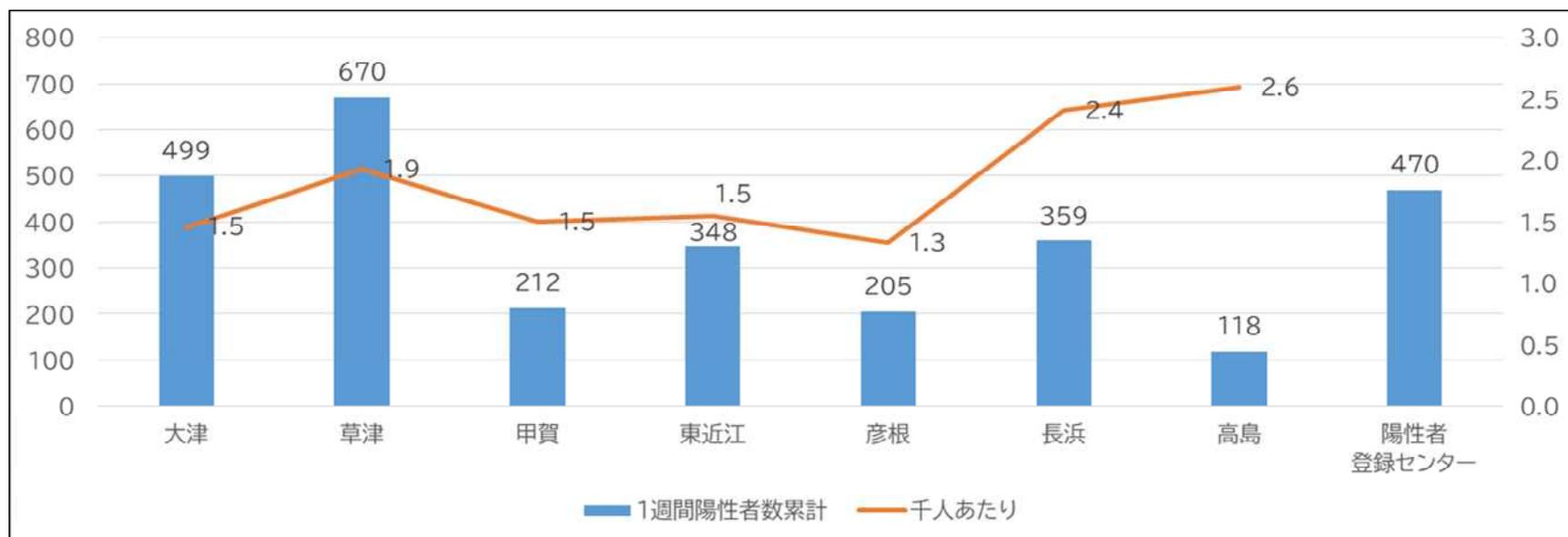
公表日別流行曲線(週ベース 2/12 15:00現在)



3)医療圏別の陽性者発生状況(2/12現在)

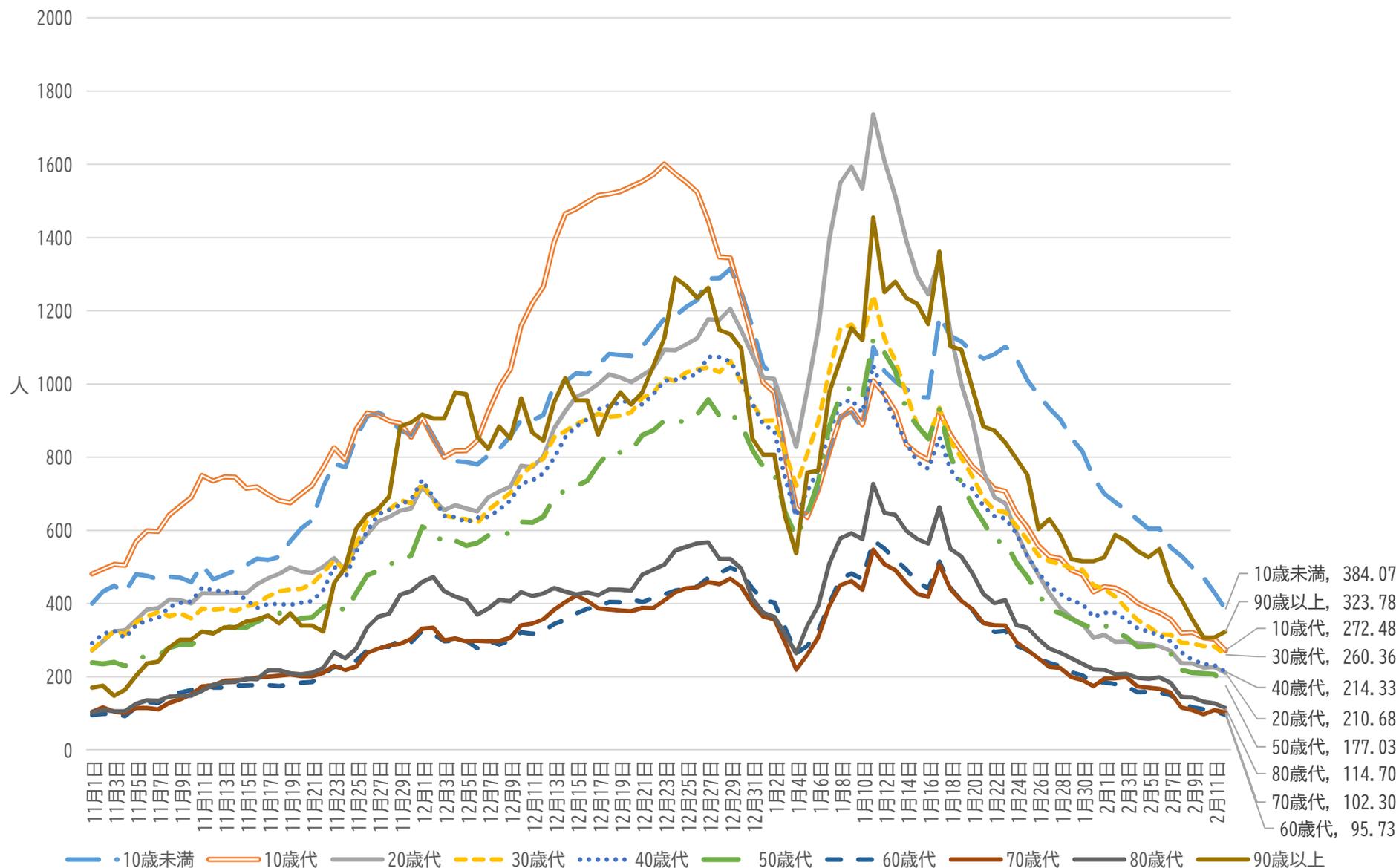
※報告医療機関の所在地別集計であり、実際の患者の居所と一致しない場合があります。

	大津 (大津市)	草津 (草津市・守山市・ 栗東市・野洲市)	甲賀 (甲賀市・湖南市)	東近江 (東近江市・近江 八幡市・日野町・ 竜王町)	彦根 (彦根市・愛荘町・ 豊郷町・甲良町・ 多賀町)	長浜 (長浜市・米原市)	高島 (高島市)	陽性者 登録センター	合計
2月6日	34	9	11	4	5	24	0	63	150
2月7日	84	201	72	97	59	111	35	92	751
2月8日	124	150	43	56	46	84	7	69	579
2月9日	97	74	34	74	32	49	17	85	462
2月10日	63	103	23	49	20	29	5	71	363
2月11日	58	118	28	63	43	47	54	53	464
2月12日	39	15	1	5	0	15	0	37	112
合計	499	670	212	348	205	359	118	470	2,881

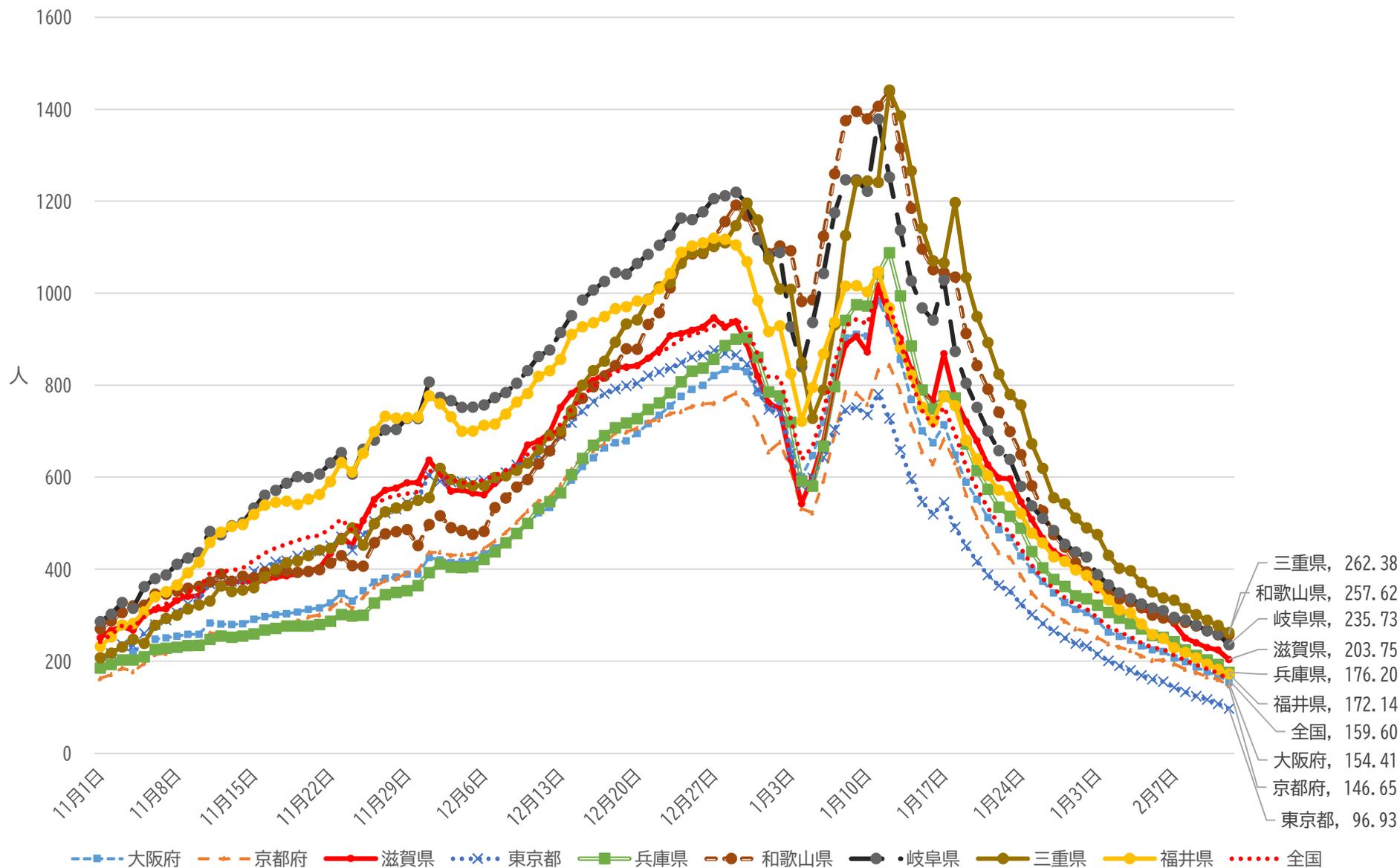


4) 年代別 10万人あたりの新規感染者数推移

(公表日 直近7日間の累計患者数) (R4.11/1 - R5.2/12)



5) 近隣府県等の10万人当たりの新規感染者数の推移 (直近7日間の累計患者数) (R4.11/1-R5.2/12)



2、県内の感染状況・各指標の状況について(2/12現在)

1)県内の病床数および宿泊療養施設の状況

病床数	入院者数			空床数
		県内発生	その他	
501	149	131	18	352

宿泊療養 部屋数	療養者数			その他	空数
		県内発生	県外発生		
518	26	26	0	19	473

2)県内の陽性者発生状況

陽性者累計	入院患者 (県内発生)				死亡
		軽症	中等症	重症	
367,482	131	96	35	0	639

重症:ICUに入室または人工呼吸器・ECMO(体外式膜型人工肺)が必要
 中等症:酸素投与が必要

3)各指標の状況

現時点の確保病床の占有率※1	29.7%	
最大確保病床の占有率(レベル判断指標)※2	29.7%	
うち重症者用病床の最大確保病床の占有率(レベル判断指標)※3	0.0%	
直近1週間における人口10万人当たりの新規報告数	203.7人	
直近1週間と先週1週間の陽性者数の比較※4	少ない	
直近1週間のPCR等陽性率※5	28.0%	
	PCR等検査数(直近1週間分)	11,559件
	PCR検査数(累計)	1,305,508件

※1 現時点の確保病床の数、501床に対する割合

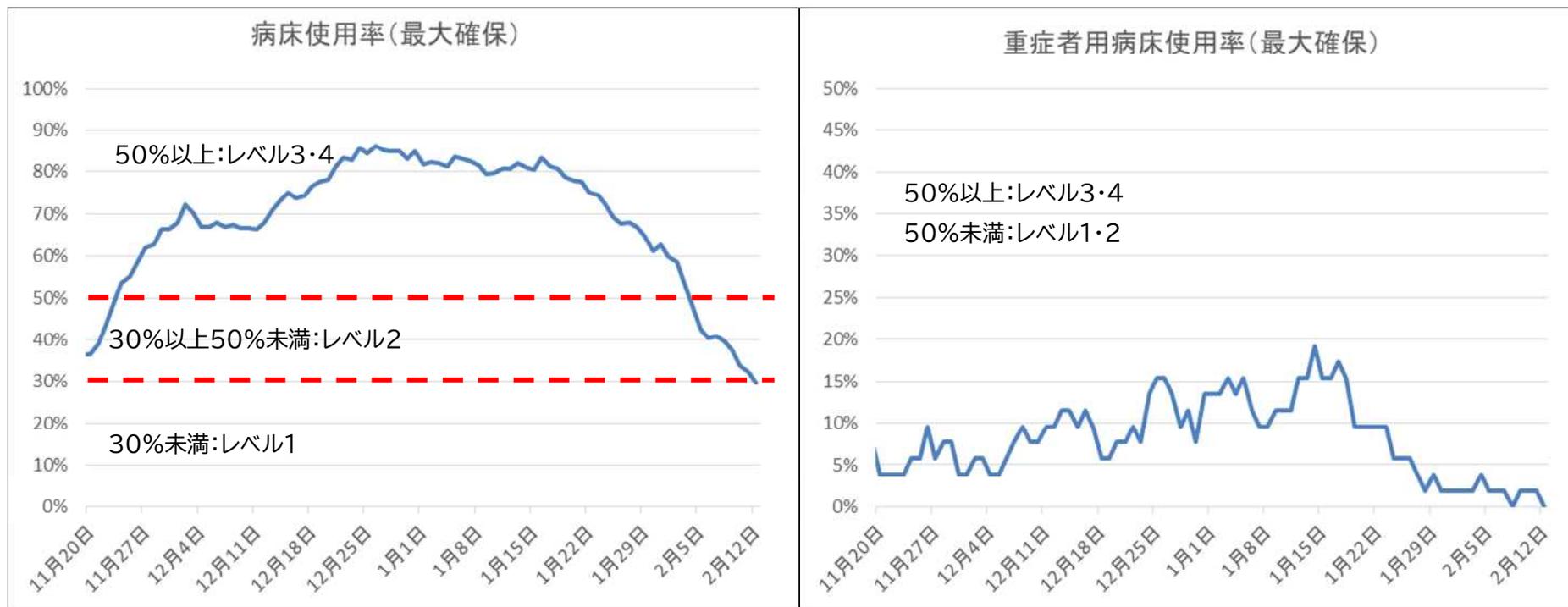
※2 ピーク時に確保予定である病床数、501床に対する割合

※3 ピーク時に確保予定である病床数、52床に対する割合

※4 直近一週間の陽性者数が先週一週間に比較し多いか少ないか記載

※5 報告受領件数(抗原検査を含む)に基づく陽性率(自己検査・無料検査は含まない。)

4)各レベル判断指標の推移

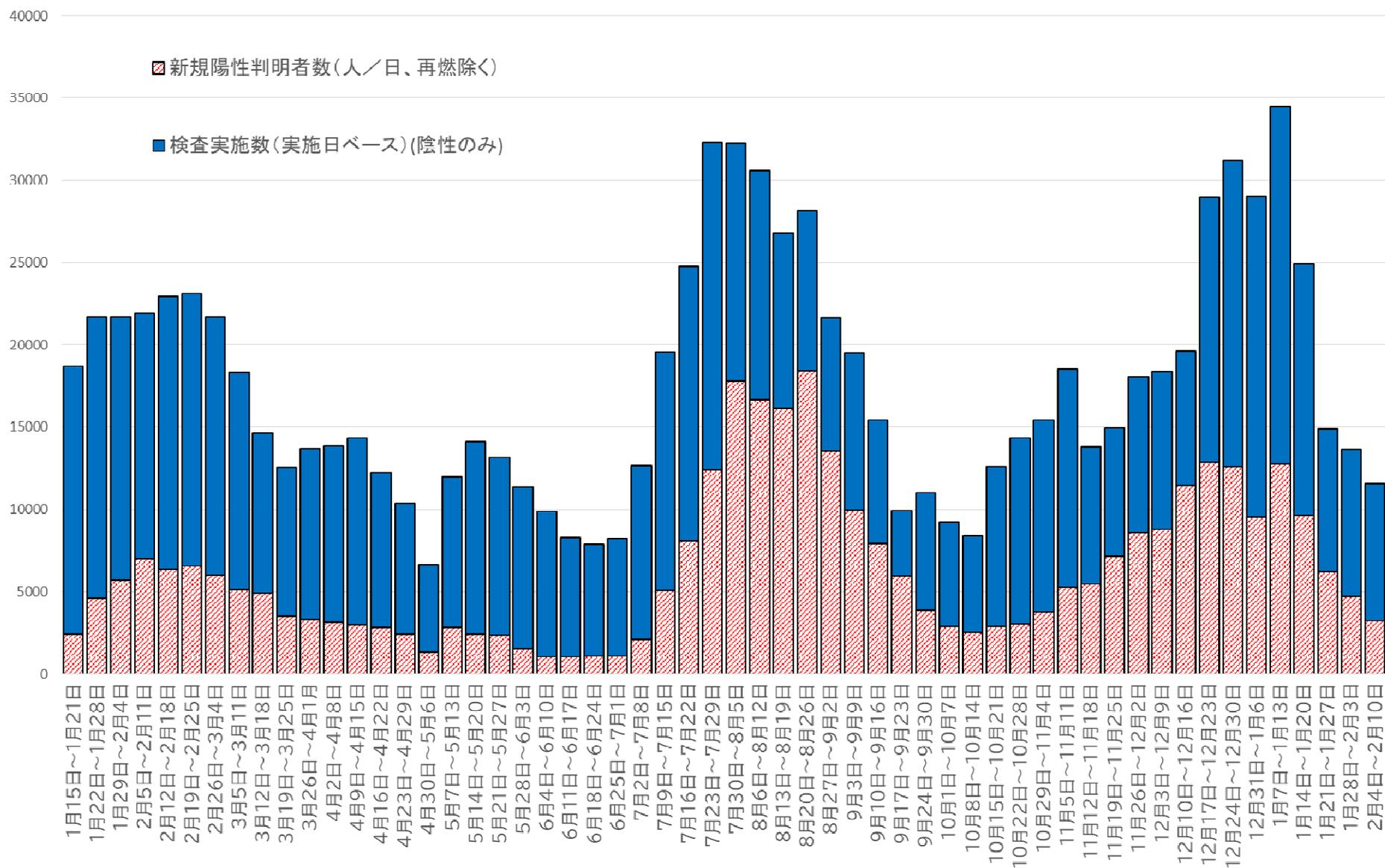


5)陽性率の推移(7日間移動平均)



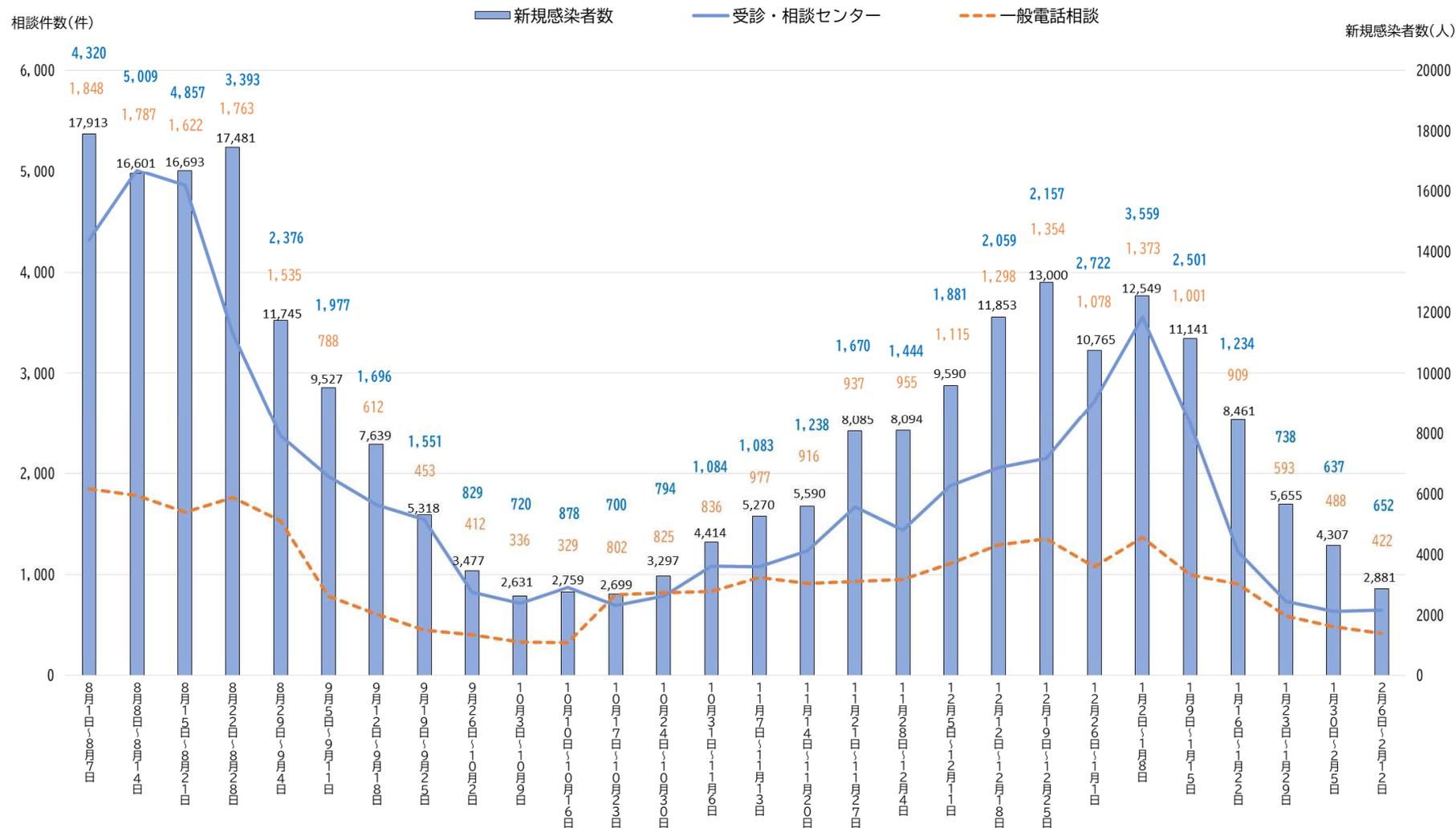
陽性率の7日間の移動平均（その日までの7日間の平均）を見ると、2月10日現在の陽性率は28.0%でした。※検査実施日ごとの報告件数（抗原検査を含む）に基づく陽性率

6)PCR等検査の状況(陰性確認を除く)



7) 相談体制について

相談件数と新規感染者数（週計）



変異株にかかるゲノム解析状況について

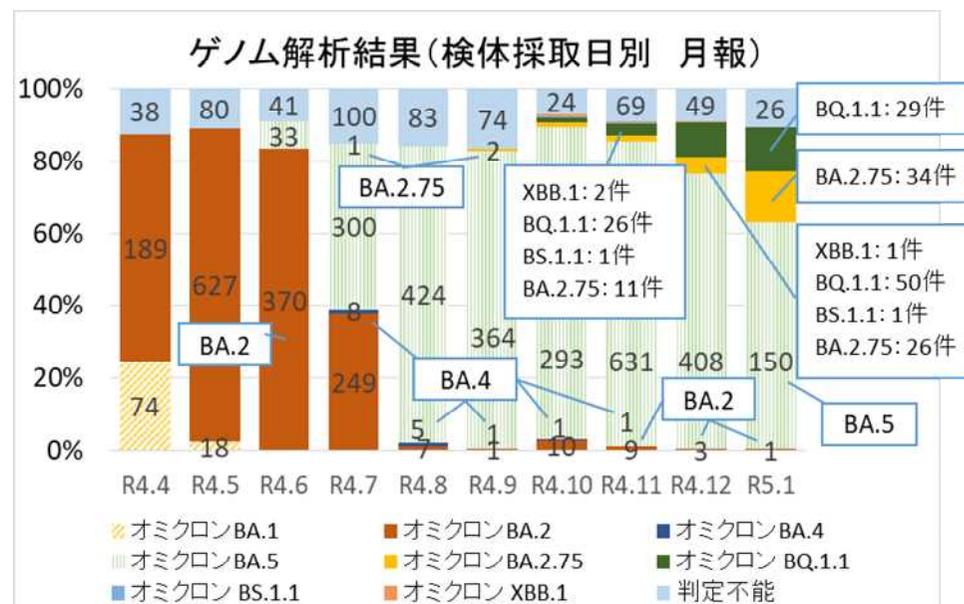
■全国の状況について

感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス(SARSCoV2)の変異株について(第24報)(2023年1月13日 国立感染症研究所)抜粋

- オミクロンの中では多くの亜系統が発生しているが、BA.5 系統が 63.7%、BA.2 系統が 15.2%、BA.4 系統が 0.7%、(いずれも亜系統を含む)と、引き続き世界的に BA.5 系統が流行の主流となっている(WHO, 2023a)。
- いくつかの地域で感染者数増加の優位性がみられる亜系統も報告されているが、特定の変異株が世界的に優勢となる兆候は見られない。一方で、2022 年第 50 週時点で、BQ.1 系統は全世界で検出された株の 44.9%を占め、割合は上昇傾向が続いている(WHO, 2023a)。
- 日本では、1 月 8 日時点で BQ.1 系統が検疫で 89 件、国内で 3,995 件検出されており(GISAID, 2023)、第 43 週(10 月 24 日～30 日)には 1.4%であったが、第 1 週(1 月 2 日～8 日)においては 32%を占めると推定されている(国立感染症研究所, 2023)。
- BQ.1 系統、XBB 系統ともに、中和抗体からの逃避能の上昇が示唆されているが、重症度、治療薬の有効性への影響についての明らかな知見はなく、今後の国内外での検出状況、感染者数や重症者数の推移を注視する必要がある。

■滋賀県内の状況について

- 本県では、4月1日から2月3日までに6,214件のゲノム解析結果が判明しており、うちBA.5系統が10月時点で85.9%を占め、感染の主流系統がBA.2系統からBA.5系統に置き換わった。
- 10月以降、BA.2系統やBA.5系統を起源とする亜系統(BA.2.75、BQ.1.1、BS.1.1、XBB.1)が増加傾向にある。
- 特に、BA.2.75、BQ.1.1が占める割合は、10月時点でそれぞれ1.5%、1.2%であったのに対して、2月3日現在で14.2%、12.1%となっている。
- 引き続き、検出状況に注視する必要がある。



評価(2/6~2/12の感染状況)

- 全国の新規陽性者数は、継続して減少傾向（実行再生産数Rtが1より小さい。）になっています。
- 本県も減少傾向にあり2月12日時点で今週先週比は0.67、直近1週間における人口10万人当たりの新規報告数は203.7となり、2022年10月下旬と同水準まで減少しました。年代別でも、全ての年代で減少傾向にあります。
- 最大確保病床に対する占有率は2月12日時点で29.7%と2022年11月初めと同水準まで減少しました。重症病床の占有率は0%となっています。
- 受験や転勤等で移動が多くなったり、普段会わない人との接触の機会が多くなると、感染者数が増加します。継続して場面に応じたマスク着用、換気、手指消毒など基本的な感染対策をお願いします。
- 高齢者施設等で継続して感染者が報告されています。換気が十分でない場合が多く、寒い時期で常時換気が難しいところですが、ケア時の居室や食事時など、人が密になる場面で特に気を付けて換気をお願いします。医療・介護サービスを安全かつ継続的に提供するため、また職員自身の健康を守るため、感染対策の知識を習得しそれを実践しましょう。
- 本県では、1月17日から2月20日を「オミクロン株対応ワクチン“一人1回”接種促進強化期間」とし、ワクチン接種の促進を図っています。ワクチンの効果は徐々に減弱するので、オミクロン株対応ワクチンを接種していない方は、もう1回のオミクロン株対応ワクチン接種を検討してください。インフルエンザワクチンとの同時接種も可能です。
- インフルエンザの報告数が増加してきています。本県の令和5年第5週(1/30~2/5)のインフルエンザ定点医療機関当たりの報告数は10.73となり注意報が発令されました。注意報発令は2019年1月以来3シーズンぶりとなります。全国的に増加し、警報レベルの自治体も増加しており、今後の動向に注視が必要です。